

## 単元名

## 「日本の伝統音楽・楽器に親しもう！」

挑戦問題 『日本の伝統楽器「尺八」の素晴らしさを伝えられるようになろう』

## 本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情方収集・判断 思考・表現 探究・挑戦 使命・責任 協働・協力 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

日本という国に生まれながら、「日本の伝統音楽」に触れる機会が少ない生徒たちに、本題材を通して、尺八の音色に親しみ、様々な奏法による音色の変化を感じ取り、尺八の魅力を味わわせるとともに、実際に和楽器に触れ、体験することで、我が国の伝統音楽への理解の深化を図ることが期待できる。さらに、第2・3学年の総合的な学習の時間「匠の時間」での尺八・箏のより一層の技能の習得や第3学年の英語の時間での「我が国の伝統文化を外国の人に伝えよう」等、教科横断型課題解決学習を通して、グローバル人材の育成を図ることが期待できる。

## 平成28年度取組より

## Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・尺八には今まで習ってきたリコーダーなどの楽器と違って、とても沢山の奏法があることが分かった。
- ・低い音が出るのかと思っていたので、意外と音が高かったことに、驚きました。
- ・昔は一般人が扱うことができない楽器だったことを知りました。
- ・尺八の音の変化や、奏法を予想することが楽しかった。



【ICTを活用しての情報収集】

## After 【生徒の振り返りより】

- ・尺八は穴が大きいので指でおさえるのがとても難しく良い音は出なかったけど、練習すると吹けるようになってとても楽しかった。
- ・指導の先生から、何度間違っても「ばっちり」と言ってもらえたことがうれしくて、尺八が面白いと思った。
- ・最初はなかなか吹けませんでしたでしたが、音が出るようになると達成感が大きかったです。
- ・今回、尺八を経験して日本の文化の一つでも多く知り、広めていきたいと思いました。



【音楽的な感受での尺八活用】

## 平成29年度指導計画改善のポイント

- ・次年度は、新たに開発した目標に準拠したSループリックを活用することで、学習意欲の高揚と指導と評価の一体化を図りたい。また、そのためにも、ICTの有効活用を踏襲・発展させ、効果的な情報収集と知識の深化を図るとともに、個人・集団思考や「振り返り」の時間の確保と充実を図る。
- ・今年度より、尺八の講師（岩城先生）を招いて器楽と鑑賞の一体化を試みた。歴史や尺八の奥深さについての学習後に器楽を行うことで、生徒の関心を高めたり、演奏できた喜びや楽しさを味わわせたりすることができた。次年度については、奏法のポイント等のより効果的な習得に向けて、授業時数の再考や講師との密接な連携が必要である。
- ・グローバル人材の育成に向けて、まず、地域や我が国の伝統文化の理解が重要であることを生徒により意識させるとともに、「匠の時間」講師や英語科との連携を密にし、「教科横断型課題解決学習」の内容の充実を図ることが重要である。 【「鑑賞と器楽の一体化」講師の指導による尺八の練習場面】

